

静岡市公共交通シンポジウム

まちの活性化と公共交通 ～まちづくりと一体となったLRTの導入～

日時：平成25年1月19日（土） 15:00～17:50

場所：清水テルサ1階「テルサホール」

基調講演1 「LRTとまちづくり～経済学的な視点から～」

宇都宮 浄人（関西大学経済学部 教授）



基調講演2 「公共交通導入で賑わうフランスの  
地方都市・ストラスブール市の例」

ヴェンソン藤井由実

（「ストラスブールのまちづくり・  
トラムとにぎわいの地方都市」著者）



パネルディスカッション 「まちの活性化と公共交通」

【コーディネーター】

川口 宗敏（静岡文化芸術大学大学院  
デザイン研究科 教授）

【パネリスト】

久保田 尚（埼玉大学大学院  
理工学研究科 教授）

宇都宮 浄人（関西大学経済学部 教授）

ヴェンソン藤井由実（「ストラスブールのまちづくり・  
トラムとにぎわいの地方都市」著者）

【司会】

神谷 幸恵（フリーアナウンサー）



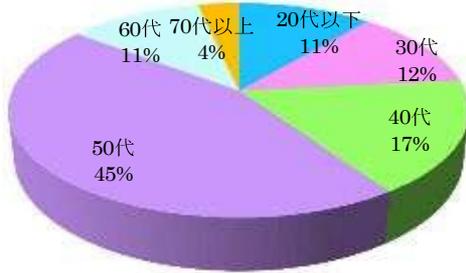
# 静岡市公共交通シンポジウム アンケート結果

平成 25 年 1 月 19 日(土)15:00～ 清水テルサ1階「テルサホール」

## 1. 来場者構成

### (1)年齢

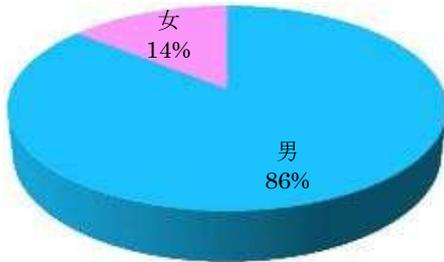
	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
人数	23	25	35	92	23	7
比率	11%	12%	17%	45%	11%	3%



参加者の約半分を 50 代が占めており、次いで 40 代、30 代、20 代以下と 60 代の順で多かった。

### (2)性別

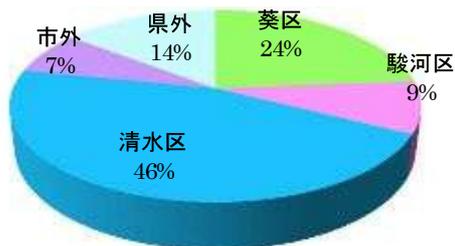
	男	女
人数	176	29
比率	86%	14%



参加者の多くは男性であった。

### (3)住まい

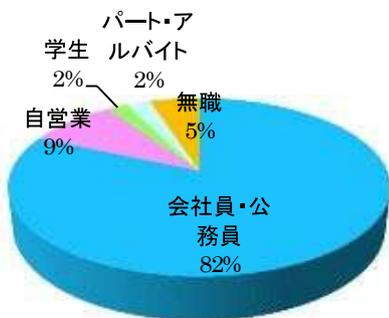
	葵区	駿河区	清水区	市外	県外
人数	49	18	94	15	30
比率	24%	9%	46%	7%	15%



市内からの参加者が 79% で市内参加者の半分以上は清水区に住まいのある方であった。またサミットの関係もあり、県外からの参加者も増えた。

#### (4)職業

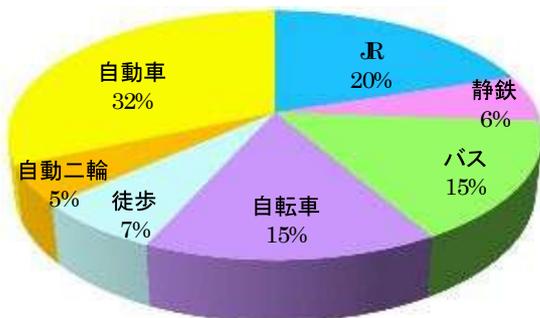
	会社員・公務員	自営業	学生	家事専業	パート・アルバイト	無職
人数	164	18	4	0	5	10
比率	82%	9%	2%	0%	2%	5%



会社員・公務員が参加者のほとんどを占める結果となった。

#### (5)都心に来る時に主に利用する交通手段

	JR	静鉄	バス	自転車	徒歩	自動二輪	自動車
人数	36	11	28	27	12	9	57
比率	20%	6%	16%	15%	7%	5%	32%

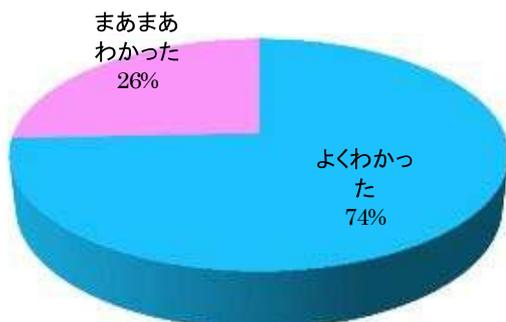


都心にくる手段は、単体では自動車が多く、次いでJRという結果となった。鉄道やバスといった公共交通利用は全体の41%を占めており、自動車と自動二輪の利用は37%を占めていることから、若干ではあるが、公共交通を利用して都心にくる人が多い結果となった。

## 2. シンポジウムについて

### (1)基調講演1について

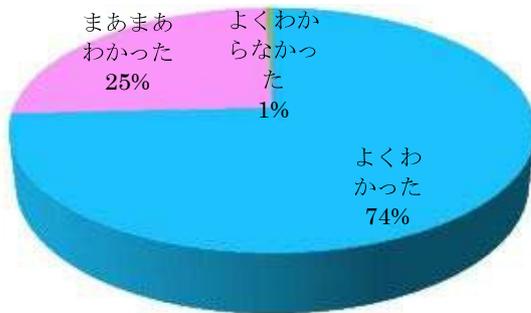
	よくわかった	まあまあわかった	よくわからなかった
人数	148	51	0
比率	74%	26%	0%



参加者の理解度が高い基調講演だったといえる。

(2) 基調講演2について

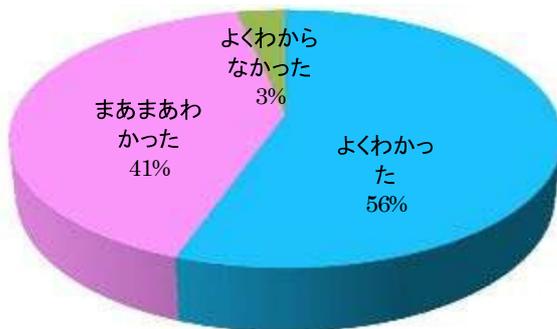
	よくわかった	まあまあわかった	よくわからなかった
人数	144	49	1
比率	74%	25%	1%



参加者の理解度が高い基調講演だったといえる。

(3) パネルディスカッションについて

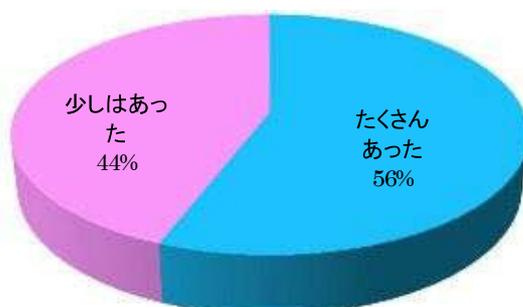
	よくわかった	まあまあわかった	よくわからなかった
人数	82	61	5
比率	55%	41%	3%



参加者の理解度が高いパネルディスカッションだったといえる。

(4) 今回のシンポジウムに参加して、関心をもったことがあったか

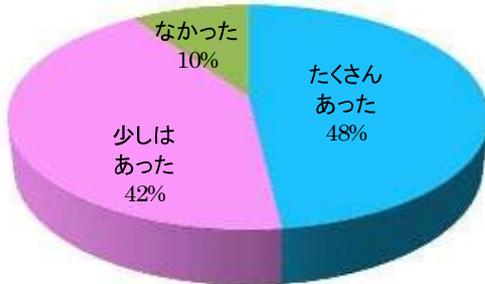
	たくさんあった	少しはあった	なかった
人数	105	83	0
比率	56%	44%	0%



参加者の多くが、シンポジウムに参加して公共交通に関心をもっていたといえる。

(5) 今回のシンポジウムの参加前と参加後で公共交通に関する意識の変化があったか

	たくさんあった	少しはあった	なかった
人数	92	81	18
比率	48%	42%	9%



参加者の多くが、シンポジウムの参加前と参加後で公共交通に関する意識の変化があったといえる。

3. パネルディスカッションについて

(1) 静岡市の市街地を「公共交通中心のまちづくり」にしたいか「車中心のまちづくり」にしたいか。

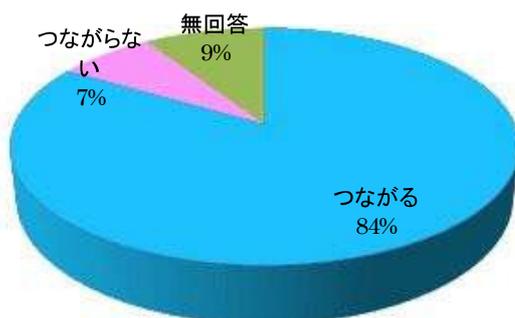
	公共交通	車	無回答
人数	193	2	11
比率	99%	1%	6%



9割以上の方が、市街地を公共交通中心のまちづくりにしたいと考えている。

(2) まちづくりと一体となったLRTの導入が、清水のまちの活気につながると思うか。

	つながる	つながらない	無回答
人数	172	15	19
比率	92%	8%	10%



約9割の人が、まちづくりと一体となったLRTの導入が、清水のまちの活気につながると思うと回答している。

(3)LRT の導入により、大きな経済効果がもたらされるのならば、道路整備の様にLRTも行政が主体となって整備することに賛同できるか。

	賛同できる	賛同できない	無回答
人数	192	5	9
比率	97%	3%	5%

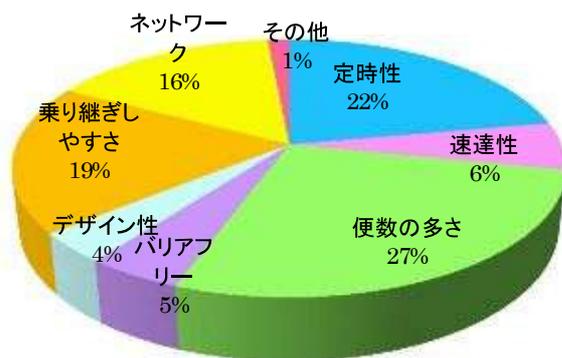


9割以上の人が大きな経済効果がもたらせるならば、道路整備の様に行政が主体となって整備することに賛同できると回答している。

#### 4. 公共交通について

(1)公共交通にとって特に重要・必要だと思うもの

	定時性	速達性	便数の多さ	バリアフリー	デザイン性	乗り継ぎしやすさ	ネットワーク	その他
人数	89	24	110	19	15	75	63	6
比率	22%	6%	27%	5%	4%	19%	16%	1%



定時性や便数の多さ、乗継のしやすさが公共交通にとって特に重要・必要と回答している。またその他として、廉価な運賃、安く手軽に乗れる、全てが重要であるといった意見があった。